■研究発表論文

東京大空襲モニュメントの都市空間における受容と変容についての一考察

A study on the acceptance and transformation of the Great Tokyo Air Raid monuments in the urban environment

柳原　博史*　　菅野　博貢**

Hiroshi YANAGIHARA　Hirotsugu KANNO

Abstract: This paper is to analyze the monuments of the Tokyo Air Raid (occurred on March 10, 1945, in the east side of Tokyo), which established from the end of World War II to the present day. In those 72 years, within the drastic change of Tokyo's urban environment, as well as changes of people's consciousness, we explore how the environment has accepted those monuments and how the monuments have transformed themselves. Through the 101 cases of monuments by field surveys, documents and interviews, we found a large number of monuments to memorize the each special victims, located in temples and public spaces, have been maintained as activities especially by the neighborhood associations who have important roles. The monuments have a potential directivity to want to be permanent, and tend to be made of permanent materials such as stone, some of which were replaced from the wood monuments. On the other hand, there are transitions due to external factors with monuments. In some cases there were relocation due to the influence of public works such as bridge reconstructions and park renovations. Until the 1960s, there were cases in which monuments were transferred from public places to other places, but since the 1980s they have been built again in public spacess including parks and roadsides, after the completions of public works.

Keywords: *monument, Great Tokyo Air Raid, public space, time, transformation, memorial, remains*
キーワード：モニュメント，東京大空襲，公共空間，時間，変容，追悼碑，遺構

１．はじめに

（１）研究の背景と目的

戦後 72 年を経て東京の都市環境は大きな変貌を遂げた。戦後間もなく設置のはじまった東京大空襲のモニュメントも，都市空間の変容とともに様々な影響を受けてきたと考えられる。また，戦争の生々しい記憶が年々薄れ，直接戦争を体験した世代がきわめて少なくなる中で，人々の戦争に対する意識も大きく変化している。本稿は大戦末期の東京大空襲（1945 年３月 10 日深夜発生）に起因して建立されたモニュメントとその周囲の空間が，都市空間の変化と人々の意識の変化を背景として，どのように受容され，また変容してきたのかを明らかにすることを目的とする。

（２）既往研究と本研究の位置づけ

東京大空襲の慰霊とモニュメントに関しては，社会学の研究として，木村の論文[1]が，モニュメント76事例の設置時期ごとの碑文に記されたテキストを分析している。それによると，1) 1945～52年が空襲死者の供養目的で空襲に関して何も記されなかった時期，2) 53年～69年は空襲の説明が記されるようになった時期，3) 70年～94年は，死者供養に加えて平和祈願が記されるようになった時期，4) 1995年以降は「語り継ぐ」ことが記されるようになった時期，というように区分される。これらは設立者の想いが時代とともに変化し，モニュメントが当初，特定の人に対する追悼・慰霊目的であったものから，不特定多数の人々を意識し，より公共性を帯びて行く経過を示唆している。一方，後年設立されたモニュメントは，何故戦後何年もの時間を経て建てられたのか，追悼・慰霊碑以外のモニュメントの状況や，周辺環境とモニュメントの関係はどうであるか，といった疑問も想起される。本稿では，モニュメントに込められた設立者の意思の時間的推移を参照しつつ，空間的視点を加え，時間的変化がどのようにモニュメントを変容させ，また都市空間がどのようにモニュメントを受容したのかを考えることとする。

田川[2]は，広島の原爆に関連する記念物を時間と空間の双方から分析し，平和記念公園以外の市内218基の記念物を追悼・慰霊，平和希求，遺構に分け，特定の犠牲者を慰霊・追悼するものが1965年をピークに設立数が減ってきたのに対し，平和希求の記念物は，今日まで継続的に建てられていることを明らかにしている。また，1980年から広島市が「原爆被災説明板」の設置や被爆建物，被爆樹木の保存をはじめ，これら遺構の記念物が都市の中で空間的に組織化され，日常的な場を異化する役割を担っていることを指摘している。本稿では，追悼・慰霊，平和希求や遺構といったモニュメントの分類と，広島での時間的推移を参照しながら，東京（城東地区）という都市の中でのモニュメントの位置づけを考察することとする。

２．研究方法

（１）調査対象

対象は，東京大空襲（1945年3月10日発生）に起因して屋外の公共空間，またはそれに準ずる場所に置かれたモニュメントで，民有地や寺社の敷地内でも，誰もがアクセス可能なものを含める。

モニュメントは，何編かの資料を元に，ホームページ等の情報で補完しながらリストアップをし，現地踏査で調整をした。[3]

現地踏査の過程で，東京大空襲のモニュメントとして現場で明確に判別出来ないものは除外した。（遺構や，何らかの事象があった場所とされているもので，各種資料に紹介されているが，現在のところ現場に一切の説明等が無いものがこれに相当する）

ひとつの場所に，同一の設置者，管理者が複数のモニュメント（例えば，慰霊碑と地蔵，慰霊碑と遺構など）を設置している場合は，各々を別のモニュメントとしてその数分を例数に計上し，由来碑など補足的な碑を併設している場合は計上しない。

関東大震災の慰霊碑と合祀され，その旨が記されているものは含めるが，従軍者の記念碑や東京大空襲には触れずに一般的な平和を祈念するモニュメントは除外した。

その結果，モニュメントとして分析の対象としたものは93箇所

*株式会社マインドスケープ　**明治大学農学部

の101例となった。（表―1）

（２）調査項目と方法

調査対象地の各モニュメントに対して，モニュメントとその周辺の空間がどのように感受され，またその後どのように変化しているかを明らかにするために，次の１）～５）の５つの点に着目して現地調査を実施した。現地調査においては，事前に収集した文献資料と，現地でのヒヤリング調査[4]により，不足する情報を補完した。

１）モニュメントのタイプ：広島での既往研究を参考に，追悼・慰霊碑，彫刻，遺構に分類し，モニュメントがどのような意図をもって都市空間に設置されているのかを捉える。

２）素材：モニュメントの永続性を測る指標の一つとして，どのような素材が用いられているのかについて着目した。特にモニュメントが改変される際にどのような素材の変更が行われるのかについても，設置者の意識の反映として記録することとした。

３）立地：モニュメントは，寺院等の宗教施設，公園・緑道などの公共用地，そして一般の民有地の何れかに設置されている。立地場所による管理状況，長期的な立地とモニュメントの永続性に着目して調査を行う。

４）周辺環境：モニュメントの周辺環境，併設物の有無について記録する。モニュメントと管理者の関わり方，空間そのものの使途の変遷等について把握する。

５）設立者と管理者：モニュメント建立時の設立者は，現在に至るまで変遷しており，その設立主体が変化することで，モニュメントの管理体勢，周辺住人との関わりも変化すると考えられる。個人，有志，町会，企業等，設立主体の変遷について調査を行う。

以上の調査により，モニュメントが都市空間にどのように受容され，その後変容しているのか，受容の過程，変容の要因について明らかにした。

３．調査結果及び分析

（１）モニュメント１０１例の現況

１）モニュメントのタイプ

モニュメントは，設立の目的に応じて大きく３つのタイプに分類出来る。①主に特定の犠牲者を追悼・慰霊する目的で置かれた追悼・慰霊碑，②不特定の被災者を追悼し，さらに史実を広く伝承する目的で，それを別の形態で表現をしている彫刻，③史実を伝承する直接的物証としての遺構である。

①追悼・慰霊碑が全体の85%を占め，さらに形態と空間的発現の違いから，地蔵尊，観音像，石碑（石柱，石板碑）木塔碑，その他に分けると，石碑が47例で最多となる。地蔵尊，観音像，石碑，木塔碑はいずれも古くからある正統なモニュメントの形式であると言えるが，その他に分類したものはやや異質で，いずれも東京都が設立と管理をし，横網町公園に置かれている「東京都慰霊堂(48)」「東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑(49)」「都知事記念植樹(52)」である。（(番号)は表―1中のNoを表す）

②彫刻（7例）は，説明板等から不特定の犠牲者や後世へのメッセージ性を持つと認められるもので，母，子ども，または母子をモチーフにしたものが特徴的に見られる。[5]

③遺構（8例）は，被災樹木，橋や建築等構造物の一部の実物（１例はレプリカ）で，何らか戦災の痕跡が見られるものとなっており，説明板などでその経緯や保存の意義が記されている。(表―2)

２）素材

モニュメントを素材で見ると，石が圧倒的に多く(79例），さらに銅，ブロンズ，金属等，耐久性，メンテナンス性に優れるとされる素材が多くを占め，木等の耐久性が低い素材は僅かである。[6]

このことから，モニュメントが比較的メンテナンス性を軽減させつつも，恒久的存続を指向していることが伺える。（表―3）

３）モニュメントの立地

寺が最多(41例)で，公園(26例)，民有地(18例)と続き，学校が最も少ない(2例)。[7][8] 公園，道路，川，公共施設を合わせると37例で，寺に次いで公共的空間と言える場所にも広く設置されていることが分かる。（表―4）

４）周囲の状況

周囲の状況に関する要素を列記したところ（複数適合），寺，神社に置かれたものも，比較的分かりやすい本堂手前に位置する場合が多く(34例)，寺以外では川や橋近くのもの（16例）が多い。その他，緑地や玉垣などで周囲の設えを整えている例が多く見受けられる（緑地30例，玉垣10例等）。併設物では，香台花台，賽銭箱，卒塔婆などが数多く見られ，多くのモニュメントで日常的な参拝や法要が継続されている様子が分かる。（表―5）

５）モニュメントの設置者と管理者

設置者と管理者が異なる例が46例あり，設置後にモニュメントに関与する主体が変わっているものが多いことが判る。設立者は有志(33例)，町会(32例)，個人(10例)の順であるが，管理者では寺(32例)，町会(25例)がとなり，有志，個人の設立を寺や町会が引き継いでいる場合が多く見受けられる。また，寺に設置されている碑に町会の名が記されたものも多いことから，今日において実質的にモニュメントの管理の多くは，町会が主要な役割を担っていると言って良い。（表―6）[9]

６）設立年とタイプ・立地

設立年は，碑，彫刻に直接記されているか，資料に記載されている場合はその年とし，遺構の場合には，ヒヤリングを含めて確認をし，現在地にモニュメントとして置かれるに至った年，または説明板などが設置された年としている。

設立年代とタイプをクロス集計で見ると，1940年代から70年代までは地蔵，観音像，石碑といった追悼・慰霊碑が多く(54例)，彫刻や遺構は全て1980年代以降に現れる。（表―7）

設立年代と立地のクロス集計では，寺が1950～60年代に多く，公園が反比例するように70年代以降に増えている傾向が見られる。（表―8）

（２）モニュメントの受容と変容

設立者と管理者の変更，献花，卒塔婆等の状況から，多くの例でモニュメントに人々が継続的に関与しているがことが伺えるが，モニュメントの都市空間における受容と変容をさらに分析するために，モニュメントの設立年にとらわれず，モニュメントを設立・管理主体による設立前後を通した活動として捉え，設立に至る経緯や設立後の活動の履歴と，そこに作用した要因を調査した。その結果，履歴が判明した91例のうち，51例で，移設，改設，増設，周囲の整備といった，モニュメントをめぐる何らかの変化が起こっていることが判った。これらの変化は，大きく３つに類型化出来る。その要因と共に図―1にまとめる。

１）木材から石材への変化

変化の類型のひとつとして，9例の石碑では，石碑が設立される以前に木製の碑（木塔碑等）があり，それを石材に置き換えたという経緯があることが判った。これらの石碑の設立者は，設立前から木製碑で追悼・供養を行っており，石碑に置き換えることで公式なモニュメントの設立と位置づけていることが多い。これは，追悼・供養という行為とモニュメントの設立が必ずしも一体ではないことを示唆し，戦後の混乱期に急ごしらえに建てたものを，石材による恒久的素材に置き換えることで，恒久的な存続が強く指向されていることを示唆している。

２）周囲の整備

別の変化の類型として，設立の後年に，碑の増設や，モニュメント周囲に緑地を設えたり，玉垣等で境域をつくるといった改修を行っている例が34例ある。こうした改修は1970年代以降に見ら

表―1　モニュメント一覧

No	モニュメント名称	場所	タイプ	素材	立地	周囲の状況 *2	設立年	設立者	管理者	訪問日	掲載資料	変動	履歴　〈ヒヤリング実施先〉
1	東京大空襲戦災殉難者慰霊碑	江東区永代2丁目	石碑	石	道路	川橋, 緑, 震碑, 銭, 香, 説▼△	不明	有志	町会	160309	2, 7 *3	有	戦後木碑 1977越中島橋架替工事 1980石碑設置, 木→石 公共工事〈町会〉
2	万徳院・戦災殉難者慰霊碑	江東区永代2丁目37-23	石碑	石	寺	境内前, 卒, 銭, 香	1961.9	町会	町会	160309	2, 4, 5, 7	不明	
3	重願寺・みまもり観音	江東区猿江1-11-5	観音像	銅像	寺	境内前, 緑, 銭, 香, 説	1978.9	寺	寺	160228	2, 7	有	2007周囲整備 〈寺〉
4	戦災殉難者慰霊之碑	江東区牡丹1丁目16	石碑	石	道路	川橋, 緑, 銭, 香	2002.10	町会	町会	170815	2, 7	有	戦後木碑 橋改修により撤去、地下鉄工事後に新設, 木→石 公共工事〈町会/関係個人〉
5	戦災殉難者供養塔	江東区牡丹3丁目33	石碑	石	道路	川橋, 他碑2, 香	1951	町会	町会	170815	2, 4, 5, 7	無	No15法乗院に移設した十日地蔵尊と入替え設置, 遺構併設 〈町会〉
6	a 光明寺・戦災殉難者慰霊地蔵尊	江東区亀戸3丁目42-1	石碑	石	寺	境内前, 緑, 卒, 銭、香	1961	団体	寺	160307	2, 4, 7	無	
	b 光明寺・戦災殉難者之碑		地蔵尊	石	寺	境内前, 緑, 銭, 香	1946	不明	寺	160307	2, 4	無	
7	普門院・戦災殉難者供養之碑	江東区亀戸3丁目43-3	石碑	石	寺	境内前, 玉垣, 増碑, 卒, 銭, 香, 説▼	1946.3	有志	町会	160309	1, 2, 4, 5, 7	有	1945亀戸駅木碑, 1946石碑, 1950区画整理移設, 1978周整備増設 木→石 公→寺 工事〈寺/町会〉
8	自性院・戦災地蔵尊	江東区亀戸6丁目35-23	地蔵尊	石	寺	境内前, 他碑, 卒, 銭, 香	1951	寺+町会	寺	160309	2, 4, 5	有	1995年新像に改設, 周囲整備 〈町会〉
9	ふれあい橋・「平和の祈り」記念碑	江東区亀戸9丁目	彫刻	石	公園	川橋, 公園, 説	2000.12	団体	団体	160409	2, 7	無	2014頃微修復, 公共工事〈関係個人〉
10	成等院・平和観音像	江東区三好1-6-13	観音像	銅像	寺	墓苑, 玉垣, 他碑多, 銭, 説	1957	寺	寺	160228	2, 4, 7	有	1980頃周囲整備（玉垣）, 震災で破損, 現在立入禁止〈寺〉
11	善徳寺・観音像	江東区三好2-16-7	観音像	銅像	寺	境内前, 緑, 銭, 香 説	1952	寺	寺	160228	2, 4, 5, 7	無	
12	a 良信院・戦災殉難者諸精霊供養塔	江東区三好3-7-5	石碑	石	寺	境内前, 他碑, 銭箱, 香	1994.3	町会	寺	160228	1, 2, 4, 5	有	戦後木塔 1994石柱設立, 2005建物改築で移設 木→石 〈寺〉
	b 良信院・地蔵尊		地蔵尊	石	寺	境内前, 他碑, 卒, 香	不明	寺	寺	160228	1, 2, 4, 5	有	2005建物改築で移設 〈12aと同一〉
13	長慶寺・戦災供養碑	江東区森下2-22-9	石碑	石	寺	境内前, 他碑, 卒, 香	1951	寺	寺	170224	2, 4, 5, 7	無	
14	八百霊地蔵尊	江東区森下5-15	地蔵尊	石	公園	川橋, 玉垣, 増碑, 卒, 銭, 香, 説	1946	有志	町会	160228	1, 2, 4, 7	有	1974由来碑, 2015周囲整備（堂改修, 墓誌増設, 玉垣整備） 〈町会〉
15	法乗院えんま堂・十日地蔵尊	江東区深川2-16-3	地蔵尊	石	寺	境内前, 卒, 他地蔵, 香	不明	町会	町会	160307	2, 4, 5, 7	有	No5の平久橋脇にあったものを1951移設, 道路工事 公→寺 公共工事〈町会〉
16	千石地蔵尊	江東区千石1-6-1	地蔵尊	石	公園	堂, 川橋, 公園, 他碑, 香, 説	1987.3	有志	町会	160307	2, 4, 5, 7	有	戦後千石 1-12設立, 1949石住橋横移設, 1987仙台堀川改修移設, 周囲整備, 公共工事〈町会〉
17	光明寺・世蓮多観音	江東区千田9-7	観音像	石膏	寺	堂, 境内前, 銭, 香	1950	町会	寺	170224	2,	有	周囲整備（堂整備）（年不詳）
18	扇橋戦災地蔵尊	江東区扇橋1-8-1	地蔵尊	石	民	堂, 他地蔵, 香, 説△	1984	個人	町会	160228	2, 4, 5	有	1985頃建物改築 〈町会〉
19	小名木川地蔵尊	江東区扇橋2-8-1	地蔵尊	石	民	堂, 玉垣, 銭, 香	不明	町会	町会	160228	2, 7	有	1950以前の地蔵尊再建 1970周囲整備（堂再建）, 1982周囲整備（玉垣） 〈町会〉
20	羅漢寺・地蔵尊	江東区大島3-1-8	地蔵尊	石	寺	境内前, 卒, 銭, 香	1951	寺+有志	寺	160810	2, 4	無	
21	冬木弁財天・戦災殉難殃死者供養碑	江東区冬木22-31	石碑	石	寺	境内前, 卒, 銭, 香	1951	町会	町会	160810	2, 5, 7	無	
22	希いの像	江東区東陽4-11-28	彫刻	ブロンズ	公共施設	緑, 説	1982.3	有志+区	区	160724	1, 2, 4, 5	無	1982住民要望で設置（当初は猿江恩師公園への設置を要望）〈区/関係個人〉
23	深川親子地蔵尊	江東区東陽4-2-5	地蔵尊	石	民	堂, 玉垣, 増設2, 花, 説	1948.3	有志	町会	160810	1, 2, 4, 5, 7	有	1977由来碑増設, 1995建物改修により周囲整備（堂, 玉垣, 改修碑） 〈町会〉
24	深川高校・戦災殉難者慰霊之碑	江東区東陽5-32-19	石碑	石	学校	学校内, 緑	1978	有志	有志	160810	2, 7	有	戦後室内に白木位牌設置 1978屋外石碑設立, 周囲整備（緑地）, 木→石〈関係個人〉
25	馬頭観世音	江東区南砂1-3-21	石碑	石	民	玉垣, 増碑, 卒, 香, 説	1953	団体	団体	160810	2, 7	有	1978由来碑増設, 2002周囲整備（玉垣, 祈念碑増設） 〈関係個人〉
26	戦災殉難者供養碑（波除地蔵尊）	江東区南砂2-23-9	石碑	石	民	堂, 町会館, 他地蔵, 銭, 香	不明	町会	町会	160724	2, 4, 5, 7	有	1980頃周囲整備（堂改修）
27	六地蔵尊・戦災殉難者供養之碑	江東区南砂2-28-1	石碑	石	民	堂, 独, 卒, 他地蔵, 銭, 香	1952	有志	町会	160810	1, 2, 4, 7	有	1952砂村新田六地蔵尊に代わり設立 1995周囲整備（堂改修） 〈町会〉
28	延命地蔵尊（白河戦災地蔵尊）	江東区白河2－15-14	地蔵尊	石	民	堂, 独, 増碑, 他地蔵, 銭, 香, 説△	1960.3	個人	町会	160228	1, 2, 4, 7	有	1960元の延命地蔵尊に追加設置 1980頃周囲整備（堂改修） 〈町会〉
29	戦災犠牲者慰霊碑	江東区白河2-23-5	石碑	石	公園	川橋, 公園, 他碑, 説▼△	1971.8	個人	町会	160228	2, 4, 5, 7	無	
30	萱震寺・戦災供養塔	江東区白河2-7-10	石碑	石	寺	境内奥, 銭, 香	不明	寺	寺	160724	7	不明	
31	永代寺・戦災被役者供養塔・観音像	江東区富岡1-15-1	観音像	石	寺	境内前, 卒, 銭, 香	1958.3	団体	団体	160810	2, 4	有	1990頃周囲整備（境内全体整備）
32	富岡八幡宮・天皇陛下御野立所碑	江東区富岡1-20-3	石碑	石	神社	境内前, 緑	1950	神社	神社	170310	2, 4, 7	無	
33	堀ビル・ブロンズ戦災地蔵尊	江東区富岡2-3	地蔵尊	ブロンズ	民	ビル横, 香, 説	不明	個人	個人	170815	2, 7	有	2010建物改築による改設 〈関係個人〉
34	旧松永橋モニュメント	江東区福住2-8	彫刻	金属	道路	川橋, 説	1999	区	区	160724	2, 7	無	1996松永橋改修 公共工事〈区〉
35	浄心寺・慰霊碑	江東区平野2-4-25	石碑	石	寺	境内前, 震碑, 卒, 香	1946	町会	町会	160810	2, 4, 5, 7	有	1946都営住宅建設で移設（木塔の可能性有詳細不明）, 公→寺 公共工事〈町会〉
36	母子像「戦火の下で」	江東区北砂1-5-4	彫刻	ブロンズ	民	ビル横	2002.3	団体	団体	160228	1, 2, 7	無	〈団体〉
37	平和地蔵	江東区北砂1-5-4	地蔵尊	石	民	ビル横, 香, 説	1954.3	個人	団体	160228	1, 2, 7	有	2007亀戸個人宅より移設, 個人→施設 〈36と同一〉
38	世界の子どもの平和像	江東区北砂1-5-4	彫刻	金属	民	ビル横, 説	2001	団体	団体	160228	1, 2, 7	無	〈36と同一〉
39	殉職者慰霊碑「礎」	江東区北砂2	石碑	石	民	ビル横, 緑, 説▼△	1962.3	企業	企業	170815	2, 4, 7	有	1962国鉄（当時）設立、2010土地売却建物改築, 商業施設内で周囲整備（緑地）〈関係個人〉
40	妙久寺・戦災殉難者供養碑	江東区北砂2-1-40	石碑	石	寺	墓苑, 卒, 銭, 香	1951	有志	寺	170815	2, 4, 5, 7	無	〈寺〉
41	俳人石田波郷句碑	江東区北砂5-22-10	石碑	石	学校	学校内	2008.2	有志	区	160818	7	無	〈関係個人〉
42	戦災殉難者供養塔	江東区木場6-13	石碑	石	民	川橋, 緑, 他地蔵, 銭, 香	1993.3	有志	有志	160818	2, 4, 7	有	1948平木橋に木塔, 1993高速道建設で西洲崎橋地蔵横石柱碑改設, 木→石, 公→民, 公共工事〈町会〉
43	戦災殉難者慰霊碑	江東区門前仲町1-20	石碑	石	民	ビル横, 香	1990	町会	町会	170815	2, 4, 7	有	戦後木碑設置 1990ビル改築に併せて石碑設立, 木→石 〈町会〉
44	安全地蔵尊	墨田区押上 1	地蔵尊	石	民	堂, 施設前, 香, 説	1959	企業	企業	160818	2, 3, 7	有	1954業平橋駅西に設立, 2012スカイツリー再開発で東に移設, 周囲整備（堂）〈関係個人〉
45	円通寺・大東亜戦争殉難者之碑	墨田区押上2-39-6	石碑	石	寺	境内前, 緑, 銭, 香	1968.3	町会	寺	160815	1, 3, 7	有	2000頃周囲整備（境内整備）〈寺〉
46	飛木稲荷神社　焼けた銀杏	墨田区押上2-39-6	遺構	生木	神社	境内前, 緑, 説	2010	神社	神社	160815	6, 7	無	2010説明板設置
47	言問橋手摺遺構	墨田区横綱1-4-1	遺構	鉄	公共施設	施設通路内, 説	1992	都	都	160409	2, 3, 6	無	1992言問橋改修の為欄干と縁石を東京江戸博物館で保存, 公共工事 〈都〉
48	東京都慰霊堂	墨田区横綱2-3	その他	建築	公園	公園, 説	不明	都	都	160818	1, 2, 3, 6, 7	無	
49	東京空襲犠牲者を追悼し平和を祈念する碑	墨田区横綱2-3	その他	石・花	公園	公園, 水盤, 前広場, 説	2001.3	都	都	160818	1, 2, 3, 6, 7	無	〈都/関係団体〉
50	石原町三丁目戦災死者追悼之碑	墨田区横綱2-3	石碑	石	公園	緑, 他碑, 香, 説▼△	1947	町会	町会	160818	2, 3, 6	有	1985頃周囲整備（緑地）〈町会〉
51	緑三丁目町会供養塔と墓誌	墨田区横綱2-3	石碑	石	公園	緑, 増碑, 説▼△	不明	町会	町会	160818	2, 3, 6	有	1980頃周囲整備（緑地）〈町会〉
52	都知事記念植樹	墨田区横綱2-3	その他	生木	公園	説	1995	都	都	160818	6	無	
53	夢違之地蔵尊　ゆめたがえ	墨田区菊川3-13-2	地蔵尊	石	公園	川橋, 公園, 卒, 銭, 香, 説	1983.3	寺+有志	町会	160824	1, 2, 3, 6	有	2000周囲整備（堂、墓誌増設） 〈町会〉
54	a 原公園内田丸稲荷神社・地蔵尊	墨田区京島3-44-14	地蔵尊	石	公園	堂, 神社橋, 緑, 銭, 香	1972	有志	有志	160824	6, 7	有	1980頃周囲整備（堂）, 以降改修数回有り
	b 原公園内・戦災殉難者之霊碑		石碑	石	公園	堂, 神社橋, 緑, 銭, 香	1972	有志	有志	160824	6, 7	有	1980頃周囲整備（堂）, 以降改修数回有り
55	江東寺・慰霊碑	墨田区江東橋3-6-5	石碑	石	寺	境内前, 震碑, 説	1961.3	有志	町会	160824	2, 3	有	1949元公園地に設立 区画整理で寺移設, 木碑, 1961石碑, 木→石, 公→寺, 公共工事〈寺〉
56	a 要津寺・親子三体平和和地蔵尊	墨田区千歳2-1-16	地蔵尊	石	寺	堂, 境内前, 卒, 香	不明	有志	寺	160818	6	有	1980頃周囲整備（緑地）（年不詳）
	b 要津寺・平和地蔵之碑		石碑	石	寺	堂, 境内前, 卒, 香	不明	有志	寺	160818	6	有	1980頃周囲整備（緑地）（年不詳）
57	法恩寺・戦災殉難者供養之碑	墨田区太平1-26-16	石碑	石	寺	境内前, 緑, 他碑, 卒, 香	1945.9	有志	寺	160824	1, 2, 3, 6, 7	有	戦後公園に設置, 1959寺へ移設 2000頃周囲整備（緑地, 他碑）, 公→寺〈寺〉
58	a 平和地蔵尊	墨田区八広6-53-16	地蔵尊	石	公園	堂, 緑, 竹垣, 香	1964.10	町会	町会	160824	6, 7	有	1977頃周囲整備（竹垣）, 2002周囲整備（竹垣） 〈町会〉
	b 平和地蔵尊・慰霊碑		石碑	石	公園	堂, 緑, 竹垣, 卒, 説▼△	1964.10	町会	町会	160824	6, 7	有	1977頃周囲整備（竹垣）, 2002周囲整備（竹垣） 〈58aと同一〉
	c 戦災殉難者之精霊供養塔		木柱碑	木	公園	堂, 緑, 竹垣	1994	町会	町会	160824	6, 7	有	1977頃周囲整備（竹垣）, 2002周囲整備（竹垣） 〈58aと同一〉
59	多聞寺・平和観音	墨田区墨田5-31-13	観音像	石	寺	境内前, 卒, 銭, 香, 説△	1984	有志	寺	160818	6	無	〈寺〉
60	a 多聞寺・木片		遺構	木	寺	境内前, 説	1992	有志	寺	160824	6	無	1992個人から移譲 〈59と同一〉
	b 多聞寺・浅草国際劇場鉄骨		遺構	鉄	寺	境内前, 説	1992	有志	寺	160824	6	無	1992個人から移譲 〈59と同一〉
61	厩橋地蔵尊	墨田区本所 1	地蔵尊	石	公園	堂, 川橋, 緑, 他地蔵, 銭, 香	2000.1	町会	町会	160818	6, 7	無	3体目を慰霊として追加 〈町会〉
62	能勢妙見山別院・戦災殉難諸精霊供養之碑	墨田区本所4-6-14	石碑	石	寺	境内前, 震碑, 他碑, 卒, 銭, 香	1961.3	寺+有志	寺	160824	1, 3, 6, 7	無	1961震災供養碑改修と同時に設置〈寺〉
63	a 明源寺・戦災殉難者慰霊之塔	墨田区立花1-13-10	石碑	石	寺	境内前, 増碑, 卒, 香, 説▼△	1965.3	有志	寺	160824	1, 3, 6, 7	有	1967犠古の碑増設と同時に周囲整備（基壇）, 1995五十回忌供養塔増設と同時に周囲整備（基壇改修） 〈寺〉
	b 明源寺・戦災犠古の碑他		石碑	石	寺	境内前, 増碑, 卒, 香	1967.3	有志	寺	160824	1, 3, 6, 7	有	
64	慈光院・戦災殉難諸精霊供養塔	墨田区立花1-29-3	石碑	石	寺	境内前, 玉垣, 卒, 香	1973.11	寺+有志	寺	160824	6, 7	有	1980頃周囲整備（玉垣） 〈寺〉
65	弥勒寺・聖観音	墨田区立川1-4-13	観音像	石	寺	境内前, 増碑, 卒, 銭, 香, 説△	1967	寺+有志	寺	160818	2, 3, 6, 7	有	1977、33回忌由来碑増設、2012由来碑増設 〈寺〉
66	堅川地蔵尊（榎稲荷神社）	墨田区立川4-12-6	地蔵尊	石	民	神社, 町会館, 屋根, 卒, 銭, 香, 説	1965	個人	町会	160824	2, 3, 6, 7	有	1946菊川公園内に設置, 1965公園改修で移設, 公→民, 公共工事〈町会〉
67	真源寺・戦災慰霊碑	台東区下谷1-12-16	石碑	石	寺	境内前, 卒, 銭, 香	1967.3	団体	寺	160818	1, 6, 7	無	〈関係個人〉
68	本龍寺・戦災慰霊碑	台東区今戸1-6-18	地蔵尊	石	寺	境内前, 香	不明	寺	寺	160818	1, 6	無	
69	今戸延命地蔵尊	台東区今戸2-26-7	地蔵尊	石	民	堂, ビル横, 銭, 香, 説	不明	個人	個人	170219	1, 6	不明	
70	蔵前電柱	台東区三筋1-13	遺構	FRP	民	ビル横, 説	1988	有志	有志	170222	2, 6	有	1988レブリカ製作設立, オリジナル東京江戸博物館へ保存 〈関係個人〉
71	時わすれじの塔	台東区上野公園	彫刻	石	公園	公園内, 柵, 説	2005.3	個人+有志	有志	170219	1, 2, 6	無	〈寺〉
72	寛永寺・哀しみの東京大空襲	台東区上野公園17付近	石碑	石	寺	境内前, ベンチ, 香, 説	2005.3	個人	寺	170219	1, 2	無	〈71と同一〉
73	吉原弁財天・戦災無縁塔	台東区千束3-22-3	石碑	石	神社	境内前, 震碑, 他碑, 卒, 銭, 香	不明	団体	団体?	170219	7	不明	
74	浅草寺・平和地蔵尊	台東区浅草2-1-3	地蔵尊	石	寺	境内前, 玉垣, 卒, 香	1949.4	個人	寺	170219	1, 2, 6, 7	不明	
75	浅草大平和塔	台東区浅草2-1-3	石碑	石	寺	境内前, 緑, 説	1963.8	町会	寺	170222	1, 2, 6, 7	不明	
76	浅草寺・戦災霊供養・地蔵大菩薩	台東区浅草2-1-3	地蔵尊	石	寺	境内前, 緑	1962.3	団体	寺	170219	1, 2, 7	不明	
77	浅草寺の神木いちょう	台東区浅草2-1-3	遺構	生木	寺	境内前, 説	不明	寺	寺	170219	2, 7	不明	
78	東京大空襲戦災犠牲者追悼碑	台東区浅草7-1	石碑	石	公園	川橋, 香, 千羽鶴堂, 説	1986.3	区	区	170222	1, 2, 7	無	〈区〉
79	言問橋の縁石	台東区浅草7-1	遺構	コンクリ	公園	川橋, 緑, 竹柵, 説	1992	区	区	170222	2, 7	無	1992言問橋改修に伴い架替用地に設立, 公共工事 〈79と同一〉
80	長応院・親子地蔵尊	台東区蔵前4-11	地蔵尊	石	寺	墓苑内, 卒, 香	1955.3	町会	寺	170514	1, 6, 7	無	
81	世代を結ぶ平和の像	江戸川区小松川3	彫刻	ブロンズ	公園	緑, 説	1991.3	有志	区	170212	1, 6, 7	無	〈区〉
82	旧小松川文書庫	江戸川区小松川3	遺構	建築	公園	説	1991.3	区+有志	区	170212	7	無	
83	正養寺・戦災殃死者慰霊塔	江戸川区平井2-5-18	石碑	石	寺	墓苑内, 玉垣, 卒, 銭, 香	1952	有志	寺	170514	7	不明	
84	ふれあい橋・「鎮魂」慰霊碑	江戸川区平井3	石碑	石	公園	川橋, 柵, 説	2001.8	町会	町会	160409	2, 7	無	1999から灯籠流し(毎年8/16)の祈念碑として設立, 公共工事 〈町会/9と同一の関係個人〉
85	戦災遭難死者慰霊碑	中央区日本橋茅場町3-13	石碑	石	公園	川橋, 震碑, 説▼△	1978.3	町会	町会	170219	1, 7	無	
86	明治観音堂	中央区日本橋浜町2	観音像	石	公園	堂, 公園, 緑, 灯籠, 卒, 銭, 香, 説	1950.12	個人	団体	170212	1, 6	不明	
87	戦災殉難者慰霊碑	千代田区神田佐久間町3-21	石碑	石	公園	公園内, 玉垣, 香, 説▼△	1957.3	町会	町会	170219	1, 6	無	1952 秋葉原地区10町会神田川米穀市場組合が13回忌で設置 〈関係個人〉
88	大震火災相生警察署員殉職之碑（合）*1	墨田区横川4-8-9	石碑	石	公共施設	緑, 増碑, 卒, 香, 説	1976	企業有志	企業有志	160815	2, 7	有	1984警察署統合移転に際し震災碑に合祀, 由来碑増設 2013両国から横川移転で周囲整備（緑地）
89	本所原庭警察署殉職警察官碑（合）	墨田区横川4-8-9	石碑	石	公共施設	緑, 増碑, 卒, 香, 説	1984	企業有志	企業有志	160815	2, 7	有	1978震災碑に合祀, 由来碑 1984 No88が移設 2013横川移転で周囲整備（88, 89共に警察署）
90	あづま地蔵尊（合）	墨田区吾妻橋1	地蔵尊	石	道路	川橋, 卒, 銭, 香	1966.4	町会	町会	170219	6, 7	無	
91	旧墨田電話局慰霊碑（合）	墨田区石原4-36-1	石碑	石	公共施設	緑, 増碑, 香, 説	1958.3	企業有志	企業有志	160815	2, 6, 7	有	1960祈念碑増設, 1985建物改築, 周囲整備（緑地）由来碑増設, 2002祈念碑増設（企業）
92	関東大震災、東京大空襲犠牲者慰霊碑	港区台場1-10	石碑	石	公園	公園, 海, 説▼△	1994	都+有志	都	170219	1	有	公園改修に伴い木碑を改設 木→石（東京都港湾局設置）, 公共工事 〈都〉
93	五十間鼻無縁仏堂（合）	大田区羽田6	地蔵尊	石	河川上	島, 堂, 川, 地碑, 卒, 銭, 香, 説	1945	有志	町会	170219	1, 6	無	〈町会〉

*1（合）は「関東大震災」の慰霊碑と合祀されているもの

*2 周囲の状況補足　川橋：近辺に川と橋がある（碑から見える位置）, 独：独立した敷地となっている（玉垣や柵などの場合は、そのように表記）　緑：緑地内にあるか碑の敷地内に植栽帯や樹木がある, 境内前：寺の境内の本堂より手前にある,　境内奥：本堂より奥や裏手にある, 墓苑内：寺の墓苑の中にある, 震碑：「関東大震災慰霊碑」が近傍にある　他碑：その他の祈念碑が近傍にある, 他地蔵：その他の地蔵尊が近傍にある, 増碑：祈念碑に関連する増設された碑がある, 卒：卒塔婆, 銭：賽銭箱,　香：香台花台
説：モニュメントに対する説明の有無で, ▼は石碑に直接説明が刻まれているもの, それ以外は説明板が併設されているもの, △は, 説明板はあるが, 草書や古語的表記の為, または劣化等で文字が不鮮明な為, 内容が判読し難いもの

*3 掲載資料　1. 法務省HP 2.「学び・調べ・考えようフィールドワーク東京大空襲」3.「東京大空襲関連史跡」4.「希く」 5.「写真集・石碑の誓い」6. HP「空襲日記」 7. HP「和・ピースリング」*補注4参照

表―2 タイプ

タイプ		例数
追悼・慰霊碑	地蔵尊	27
	観音像	8
	石碑	47
	木柱碑	1
	その他	3
彫刻		7
遺構		8
合計		101

表―3 素材

素材	例数
石	79
銅・ブロンズ	7
その他金属	4
コンクリート	1
FRP	1
石膏	1
木（柱状）	1
木（遺構）	1
生木	3
花壇	1
建築	2
合計	101

表―4 立地

立地	例数
寺	41
神社	3
公園	26
道路/川	6
公共施設	5
学校	2
民有地	18
合計	101

表―5 周囲の状況

周囲の状況	例数	周囲の状況	例数
川・橋の側	16	増設した碑がある	12
境内手前にある	34	他の記念碑が併設	12
境内奥にある	8	震災碑が併設	6
墓苑内にある	4	他の地蔵尊が併設	7
ビルの一角にある	8	香台花台がある	67
緑地・植栽にある	30	卒塔婆がある	38
独立地にある	2	賽銭箱がある	39
玉垣がある	10	由来・説明板 ＊1	55
堂に入っている	21		

＊1 石碑に刻まれているものを含む。判読が困難なものが14件ある

表―6 設置者と管理者

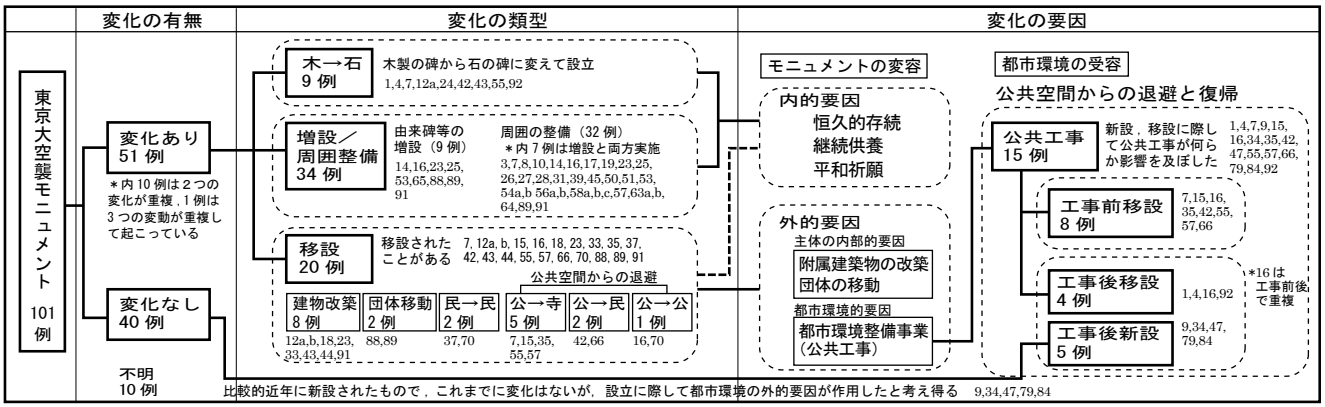
設置者		管理者	
町会	24	町会	19
		寺	5
有志	25	有志	5
		町会	8
		寺	10
		区	2
個人	10	個人	2
		寺	2
		団体	2
		町会	4
寺	8	寺	8
個人+有志	1	有志	1
寺＋町会	1	寺	1
寺＋有志	5	寺	4
		町会	1
神社	2	神社	2
団体	9	団体	6
		寺	3
企業	2	企業	2
企業有志	3	企業有志	3
区	3	区	3
区＋有志	2	区	2
都	4	都	4
都＋有志	1	都	1
不明	1	寺	1
合計	101	合計	101

表―7 年代別のタイプ

年代	地蔵尊	観音像	石碑	木碑	他追悼	彫刻	遺構	合計
1940S	5		4					9
1950S	5	5	10					20
1960S	5	1	11					17
1970S	1	1	6					8
1980S	3	1	2			1	1	8
1990S			4	1	1	2	5	13
2000S	1		4		1	4		10
2010S							1	1
不明	7		6		1		1	15
合計	27	8	47	1	3	7	8	101

表―8 年代別の立地

年代	寺	神社	公園	道路＊	公共	民地	学校	合計
1940S	5		2	1		1		9
1950S	11	1	2	1	1	4		20
1960S	11		2	1		3		17
1970S	2		4		1		1	8
1980S	1		3		2	2		8
1990S	3		6	1	1	2		13
2000S	1		5	1		2	1	10
2010S		1						1
不明	7	1	2	1		4		15
合計	41	3	26	6	5	18	2	101



図―1 モニュメントの変化の類型と要因

れるが，特に緑地や境域をつくる造園的行為は，モニュメントの永続性，供養の継続性を補強すると同時に，時間の経過に伴う，過去の悲惨な出来事の現場という状態を超えて，より前向きな平和祈願の施設への変容のひとつと見ることもできる。[10)]

3）移設による存続とその後の変化

もう一つの変化として，モニュメントの移設が行われた例が20例確認できた。移設は，モニュメントが附属する建物等の改築や，設立・管理主体が属する団体の移転（いずれも民有地に立地する場合）と，モニュメント立地（特に公共地の場合）の都市整備等に関わる公共工事の影響によるものが認められる。

石材への変更，周囲の整備といった変化は，モニュメントの設置・管理者が永年的に追悼・供養を行おうとする内的な要因に起因すると考えられるが，移設は，管理者の意思というより，都市環境等に関わる外的な要因に作用され，存続の意思を貫くために起きたことと考えられる。

4）受容と変容の過程

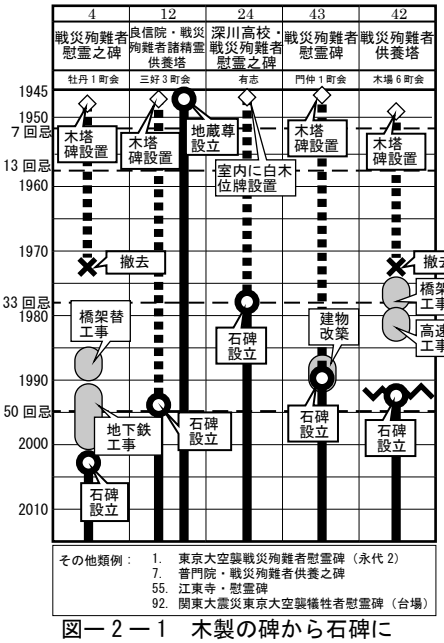
図-2は，各モニュメントの時間的推移による変化を表したもので，石材への置き換え，周囲の整備，移設等は，各モニュメントにおいて，複合的に起こっていることが分かる。

例えば，東陽4丁目町会が管理する「深川親子地蔵尊(23)」は，3周忌の1948年に民有地の一角に設立され，33回忌の1978年に由来碑を，50回忌の1995年にも碑を増設，さらに堂と玉垣の整備も行っている。（図―2―2）この直前には，ちょうど附属する建物の改築があり，それまでは地蔵尊が直ぐ道路に面して，周囲の建物も近接していたが，玉垣の設置と堂の改修により，モニュメントが独立的な場を形成するに至っている。この場合，建物の改築という外的な要因を契機として，モニュメントが安定的で平和祈願の性質を持った場に改修されたと言ってよい。（図―3―2）

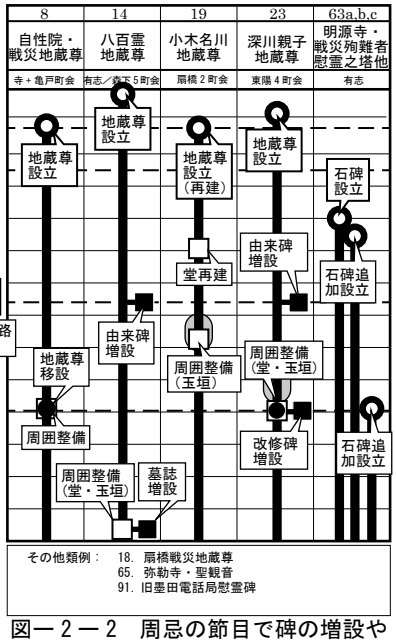
5）都市整備事業（公共工事）の影響

移設の要因として，附属建築物の改築に伴う場合の他に，モニュメントの立地が道路工事，河川改修，地下鉄工事といった都市整備事業に掛かり，公共地から寺，民有地，他の公共地に移設（または撤去）を余儀なくされた例が8例ある。（図-1，「公→寺」「公→民」「公→公」の移設）これらは1950年代までに設立されたもので1960年代までに変化が起こっているが，当初の設置時における公共地への手続きの問題があったと考えられる。

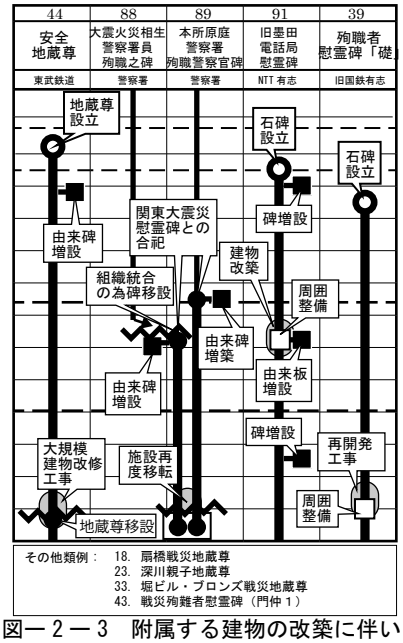
牡丹1丁目町会では，戦後間もなく有志が木塔碑を現在の碑とほぼ同じ，黒船橋の袂に設置，やがて町会が意思を継ぎ供養を続けていたが，70年代に河川改修工事開始の為，都が半ば強引に撤去をしたという。その後も地下鉄工事が連続し，その場所が長らく工事用地となってしまう。やがて工事が完了し，都と再度交渉し，設置の正式な承認が得られた2002年に，「戦災殉難者 慰霊之碑 (4)」が設立された。（図―2―1）戦後間もなくは，河川近くの公共地への設置に関する許認可の法整備がなされておらず，住民が勝手に設置したものとされ撤去されたが，2002年は，都との正式な道路占用の手続きを経て設立が実現した。（図―3―1）



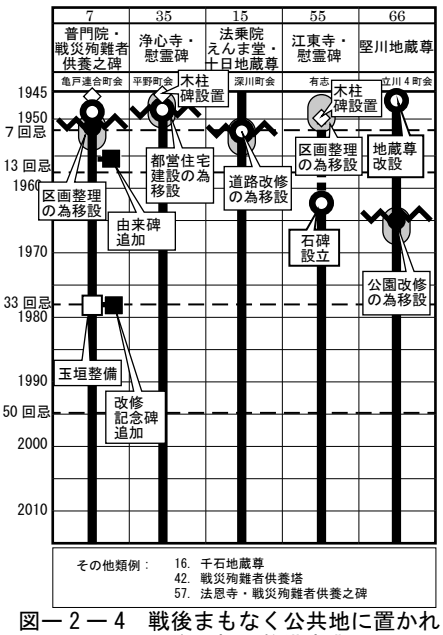
図―２―１　木製の碑から石碑に変えて設立された例



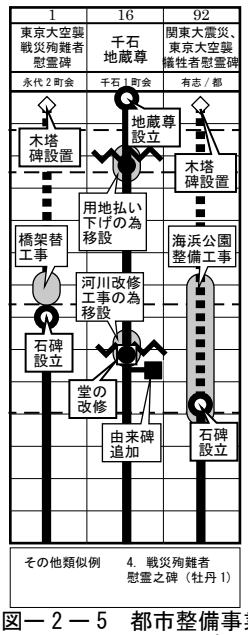
図―２―２　周忌の節目で碑の増設や周囲の整備が行われた例



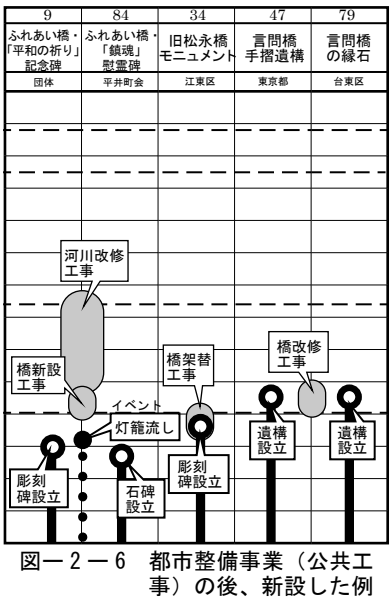
図―２―３　附属する建物の改築に伴い移設や周囲の整備を行った例



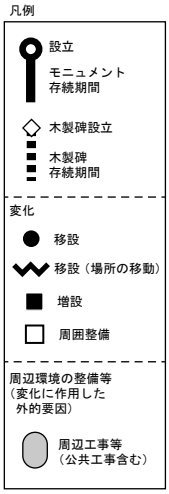
図―２―４　戦後まもなく公共地に置かれた後、都市整備事業（公共工事）の影響により移設した例



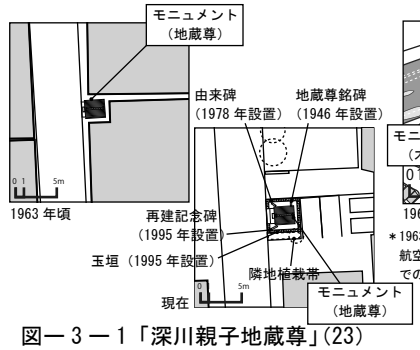
図―２―５　都市整備事業（公共工事）の後、移設した例



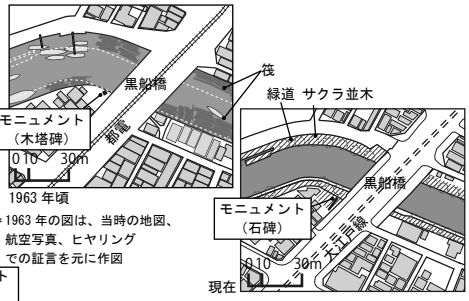
図―２―６　都市整備事業（公共工事）の後、新設した例



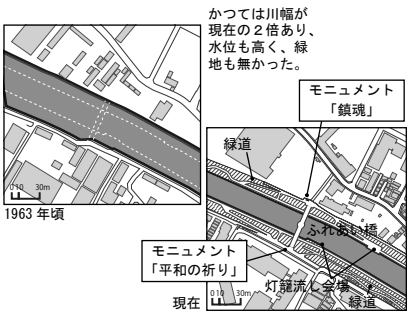
図―２　モニュメントの履歴（変動）の類型別模式



図―３―１「深川親子地蔵尊」(23)の過去と現在



図―３―２「戦災殉難者慰霊之碑」(4)（牡丹１丁目町会の活動）の過去と現在



図―３―３　ふれあい橋「平和の祈り」(9)「鎮魂」慰霊碑（84）の過去と現在

図―３　モニュメントと都市環境の関係の変化

6）公共工事に伴う新タイプのモニュメントの出現

1980年代以降は，公式な設置手続きの手法が確立し，都市整備がモニュメントの更新に契機を与える形となってくるのと同時に，この工事を要因に，新しく石碑や彫刻，遺構等のモニュメントが新設された例が5例見られる。（図―1，「工事後新設」）

江東区亀戸と江戸川区平井を結ぶ「ふれあい橋」は，戦後から度々水害を引き起こしていた旧中川の水位低下事業に伴う河川改修で，河川公園が誕生したのを機に住民の要請で江戸川，江東両区を結ぶ人道橋として整備されたものである。これに伴い，橋の袂で，両区と両岸の町会が共催し，1999年より東京大空襲犠牲者慰霊の為の「灯籠流し」が開始された。その後このイベントの目印として，橋の両岸に「平和の祈り記念碑(9)」と「鎮魂碑(84)」が新しく設立された。（図―2―6）この両モニュメントは，イベントに付随する新しいタイプのモニュメントで，新しい河川公園の空間と橋に合わせるかたちで配置されている。（図―3―3）

また，橋の架替，改修工事などを契機に，公共機関が遺構，彫刻などのモニュメントを設立するに至った例が3例ある。

「旧松永橋のモニュメント(34)」は，1996年から行われた松永橋の架替工事に際し，江東区の発案で，橋の一部に残っていた空襲の弾痕跡を切り取り，彫刻モニュメントを製作し，橋の架替用地に設立したものである。（図―2―6）言問橋の例（47,79）（図―2―6）は，そのままの状況を遺構として陳列しているが，旧松永橋のモニュメントは戦災という惨事を直接的に想起させない彫刻となっている。

4．結論

（1）まとめ

最後に戦災モニュメントの受容と変容という点から調査，分析の結果を整理して本稿のまとめとしたい。

戦後72年が経ち，戦争の記憶が薄れていることは否めないが，モニュメントにはそれを存続させていこうという強い意志がはたらいている。その85%を追悼・慰霊碑が占めていることからも分かる通り，すでに現代の我々からは直接知り得ない東京大空襲が，如何に大きなインパクトをもたらしたかを伝えている。選択されたその形態は，あまりに短時間に大量の焼死者が発生したために十分に弔われることがなかった人々の墓碑，という性格が強いことが推測される。また，特に多くの犠牲者が出た橋詰めや，遺体の仮置き場として大量の焼死体が積み上げられた寺院やオープンスペース等，モニュメントを建立した人々の記憶に直接結びつく場所が建立地として選択されたことも，今回の調査から浮かび上がってきた。

素材の面から見ると，急場しのぎ的な木製の碑から永続的な石碑への変更が見られ，記憶の風化を補うような説明文や新たな碑が加えられたものも多く見られる。

一方，戦後の復興と都市環境の更新に伴う様々な都市整備事業（公共工事等）の影響を受けたモニュメントも少なくなく，特に戦後間もなく公共的な場に置かれたものは，1960年代にかけて，そこからの退避を余儀なくされた例もあった。それでも消滅したものは殆ど無く，町会を中心とした人々が強くモニュメントの存続を支持してきたことが分かる。そして，1980年代以降，都市環境が整備されるに従い，再び公共的な場に復帰する例が見られ，同時期にイベントとの連動や遺構，彫刻等の新しいタイプのモニュメントが新設され，モニュメントの幅が広がっていった。これらは，都市や社会的な成熟を経て,モニュメント一般に対する理解も広がり，都市環境がこうしたものを受容し易くなってきている傾向としても捉え得る。

こうした過程の中でモニュメントも，さらにその周囲に緑を増やしたり，玉垣などで境域をつくるなど，より親しみやすい形態への変化が見られる。当初の悲惨な焼死者に向けた墓碑的な性格の強い弔いの施設から，未来の恒久平和を願う施設へと，モニュメントが変容してきていることが伺える。

最後に，広島でのモニュメントの考察と比較すると，東京大空襲のモニュメントにおいても，当初の犠牲者の追悼・供養から平和希求という指向性が後年強まっている傾向は共通性が認められるが，東京では都市環境の変動の中でモニュメントの場が各々整備されてきてはいるが，広島での指摘にあるような，モニュメントが都市空間を組織化し，日常的空間を異化するという傾向までは読み取れない。これは，原爆と空襲という被災の違いと，都市環境の性質の違いにも起因すると考えられる。

（2）今後の課題

本稿では，戦後72年間の東京の都市環境における東京大空襲のモニュメントの受容と変容の過程を捉えたが，将来にわたり，体験者のさらなる減少が進む中，この状況が今後，どう維持され得るか，また変わり得るかを考えることが，次の課題となった。

補注及び引用文献

1) 木村豊（2015）：東京大空襲の集合的記憶と「戦後」の時間感覚 ： モニュメントにおける死者表象の変容に着目して：軍事史学 51，72-93

2) 田川玄（2016）：広島市街地における原爆記念物の時間と空間：広島平和研究 3, 37-53

3) 最初に以下の５編の資料をベースとした。
・総務省ホームページ〈http://www.soumu.go.jp/main_sosiki/daijinkanbou/sensai/virtual/memorialsite/index.html〉, 2016. 12. 10 更新，2017. 12. 02 参照,
・東京大空襲・戦災資料センター・友の会編(2005)：学び・調べ・考えよう フィールドワーク東京大空襲 ： 平和文化
・墨田区総務部（1995）：東京大空襲関連史跡
・江東区（2001）： 希く（江東区が区民一般向けに作成した小冊子）
・江東の空襲慰霊碑をつくる会（1976）：写真集・石碑の誓い：宝栄製版
上記以外に以下のホームページを参考にした。
・空襲日記：〈http://airraiddiaries.com/〉17. 12. 04 最終更新, 17. 12. 05 参照
・和ピースリング：〈http://peacering.nobody.jp/〉13. 12. 13 最終更新, 17. 12. 03 参照

4) ヒヤリング調査は，設立者，管理者を中心に，町会, 寺, 企業, 団体, 区（江東，墨田, 台東, 江戸川），都など67例に関して61箇所で実施。町会, 寺では，過去の資料が無いことが多く，幾つかの例で，年時に関して曖昧な部分があった。

5) 東京大空襲では，母親が子どもをかばいながら避難し，また避難出来ず亡くなっている様子が多く目撃されたことから，母子を象徴的に扱う例が多数ある。

6) 「光明寺・世薀多観音(17)」では，経済的に石やブロンズが使えず，石膏に金箔を塗ったという。耐久性の高い素材が強く指向されている傾向が見て取れる。

7) この地区の特性で，区道上の橋の架替用地が児童遊園となっている場合と道路や緑道となっている場合があり，ここでは，区の指定に従って道路と公園を区別しているが，「八百霊地蔵尊(14)」は，児童遊園とされていないが，実質上公園になっているので「公園」に計上している。都道上の架替用地は道路用地であるので「道路」としている。「五十間鼻無縁仏堂(93)」は河川上にある特殊な例であるが「道路」に計上している。

8) 広島では，学校に設置されている例が多いことが指摘されている。(田川玄(2016)

9) 町会が設立し，寺に置かれている例の場合，管理者は寺となるが，実質的には町会が日常的な清掃や供え物などをしている場合が多い。

10) 玉垣などモニュメント周囲の整備に関して，ヒヤリングをした19例で，理由を尋ねたところ，明確な意図が返答されたものは皆無で，すべて誰かの発案に対して特に異論なくそうしたといった経緯であったことが分かった。モニュメントのデザインとその周囲の在り方については，今後更なる調査分析が必要であるが，設立者が暗黙にイメージする理想的定型に沿って進められている可能性がある。モニュメントのデザインに関しては設立者内で議論があった例が２例あったが，それ以外はデザインに関しても深く検討をされた経緯は見つからない。但し，公共からデザインに対して注文があった例が２例あり，いずれも「特定の宗教を想起させる形状を避けること」というもの。